

## 活動報告書

報告者氏名：深石

所属：自立活動部

記録日：H25年2月25日

### 【対象児（群）の情報】

- ・学年 小学6年生、年齢11歳
- ・障害名 脳性まひ
- ・障害と困難の内容

手を動かそうとすると、緊張が高まり、思ったところに手を伸ばすことができない。また、首の座りが不十分であり、上体の動きも伴って、頭は横を向いたり、うなだれてしまうことがある。そのため、「iPadの画面を触りたい」と思って、手を伸ばしても力が入って肩から腕を引いてしまったり、視線がずれてしまいやすい。

そのため学校の授業のなかで、手指を使う操作を伴う活動時には教員と一緒に活動する等本児童1人の力で行なうことは少ない。生活場面も含めてほとんどに介助が必要な状態である。

### 【活動目的】

- ・当初のねらい

しっかりと触ろうとする対象を見て、手を伸ばして触るといった「手指の操作性の向上」と「目と手の協調した動きを促す」ことを目標とした。また、失敗しながらも誰からも急かされることもなく、自分一人で遊び達成感や成功感を味わうこともねらいの一つとした。

- ・実施期間 平成24年4月～平成25年2月まで（現在も継続中）
- ・実施者 特設自立活動部教員、学習グループ教員、担任
- ・実施者と対象児の関係

自立活動部教員は本児童の昨年度の担任であり、今年度の特設自立活動の担当である。学習グループ教員は、今年度の特設自立活動の担当である。担任は今年度から初めて本児童の担任である

### 【活動内容と対象児（群）の変化】

#### ・対象児（群）の事前の状況

4月のiPad導入時、画面を自由にタッチして遊ぶソフト（i love fireworks lite、pocket pond）はなんとかできたが、任意の画面にタッチすることは難しかった。

#### ・活動の具体的内容

平成24年度4月より毎週木曜日の特設自立活動の授業や教室のグループの授業にて、1回20分位、取り組んできた。画面を自由にタッチして遊ぶソフト（i love fireworks lite、pocket pond）から任意の画面にタッチ、スライドして遊ぶソフト（ティッシュ、カラフル風船）に取り組んだ。iPadの指示したアイコン等に的確にタッチすることは難しいが、なんとか画面を触って手をスライドさせることができるようになった。

頭部は頸椎カラーを使用し、上体は座位保持イスのハーネスを使用して安定した視野を確保した。腕は当初は利き手の左手を活用すべく工夫したが、右手の指先の動きが良いことから、右手を使用することにし、そこから見やすい使いやすい位置を工夫した。また肘置きを当初は使用していたが、天版の両サイドに壁を設けたことにより、肘を軽く曲げて支点にして、指先のコントロールに集中できるようになった。

#### ・対象児（群）の事後の変化

任意の画面に手を動かし、操作しようとしたことで手指の操作性、目と手の協調性の向上につながった。また、自分もやれるという自信がやる気につながり、集中してiPadの画面を見続けようとしたり、ゲームの内容を理解しようと考えたりする等、積極的に取り組めるようになった。そして、努力したからこそ得られる達成感や充実感を味わうことができた。

今年の1月、本児童は「誕生日にiPadが欲しい」と母親に頼み、iPadを家庭でも楽しんでいるようである。幼い兄弟の世話のため母親は忙しく、家ではテレビを見て過ごすことが多かった本児童であったが、今ではiPadを使って一人で遊ぶようになったと母親も喜んでいる。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

- ①iPadを操作する前には肩・肘・指の運動を行なってから取り組む必要がある。また、手首が垂れてしまった状態では手指の有効な動きを引き出すことはできない。
- ②緊張を抑制して操作するには、肘の支点を安定させて、指先をコントロールしやすくすることが大切である。
- ③自身で頭部を安定することは難しいが、代わりに頸椎カラーを使用して頭部を安定させることは有効である。

④手の使いやすい側と目で見やすい側は一致していないこともある。また、利き手だと思っていた左手より、右手の方が指先のコントロールが上手だった。利き手をはっきりしていない場合は、より道具に沿った動きを引き出せる側はどちらかをアセスメントすることは大切である。

⑤iPad を置く位置や iPad を提示する角度等、児童が見て操作しやすいよう位置を考えることは重要である。

・エビデンス（具体的数値など）

箱からティッシュを取り出すアプリでは5月当初、15枚を取り出すのに20分以上かかっていたが、12月では8分、2月現在では3分程度で抜けることもあった。

また、動きやすい環境を見つけたことは、電動車いすの操作をポジショニングすることでも役立っており、肘の支点を安定させることで、レバーを前に押し進めることが上手になってきている。学校の廊下を走行する際、以前は手を添えてレバーを押す援助していたのが、自身で押すことができるようになってきている。



・その他エピソード（画像などを含めて）

4月は腕が後ろへ引かないように、肘の支点を安定させて、手指が操作しやすいように介助者が援助している。



7月は肘置きを設置し、その上で抑制することにより、介助者の援助なしにて一人で遊ぶことを試みた。しかしその結果、肘を伸ばして、腕全体に力が入ってしまったり、iPadの上画面を触れることが難しかった

10月は7月から発想を変えて、操作していた左手は緊張を抑えるために抑制した。また、右手の指先の動きの良さに注目し、右手で操作することにした。そしてiPadの見やすい、操作しやすい位置を探した



12月はさらに10月から発想を変えて、肘置きを除外し、テーブルの両サイドに壁を設けた。その結果、肘を軽く曲げて支点にし、指先のコントロールに集中することができた。



1月には外部専門家PTがiPadの操作時の姿勢の評価を行った。その結果、「テーブルの高さがやや低く、肘で支えることが十分にできていない」、「右肘が後ろへ引かれてしまい、サイドの壁が使えていない」、「座面が高くて、足底接地が不十分である。」との指摘を受け、テーブルや座面の高さを調整したり、肘と壁との隙間にクッションを置いて空間を埋めた。